第 31 回全国中学校スケート大会

上記大会が長野市で 1/29 日に開会式を行い 4 日間の日程で、32 都道府県から 500 人の選手が参加して開催されました。同市を会場に 10 年連続開催する 4 年目です。スピードのエムウエーブ、フイギュアのビッグハットの会場は、1998 年長野冬季オリンピックが行われた会場です。そんな素晴らしい会場で１０年連続大会が開催される事は「夢のある」大会だと思います。世界を目指して中学生は羽ばたいて欲しいです。

エムウエーブ外観

オリンピック記念館も併設されています

カウントダウン

ピンバッジがブームに

難聴になりスケートの競技役員などから離れて 5 年になりますが、何と無く大会が見たくなりました。１２年ぶりにインターハイが長野で先日開催されましたが、平日で休みがなくて見る機会がありませんでした。「全中」の競技初日が日曜日で仕事が休みだったので雪道を超えて見に行きました。会場の M ウエーブのすぐ近くに私の兄が子供夫婦達と住んでいます。そこへお邪魔してご馳走になってから、１１時過ぎに大会会場へ行きました。男女の 500M 予選が終わり、ちょうど男子 5000M の予選をやっていました。懐かしさで興奮しました。理由は息子がスケートをやっていて「全中」は中 2 の八戸、３年の帯広の大会へ参加したからです。特に帯広大会には我が松川中学校から男女５名も参加しました。子供たちがやる気になり、父兄達も協力的で熱くなり、その熱意が学校を動かして、スケート部が設立されたりした成果です。

当時と変わった事は、決勝進出１６名が 24 名に。1500M 以上の競技に(責任先頭制～ポイント制)が課せられた事です。あとはスケート離れが進み、選手数が減り長野県の場合は、かっては予選をクリアーして決勝進出１６名を確保しかつ１５位以内にならないと「全中」に参加できなかった。正に「目指せ、全中」がスローガンだった。しかし今は予選もなく、全員参加資格が取れるようだ。（今でも選手数の多い北海道は別だが）そのせいか予選を見ていても実力の差がかなり目立った。予選のある北海道の選手の強さが目立った。たとえば男子 500M の決勝は２４人中、北海道以外の選手は５名のみだった。靴はほとんどの選手が「スラップスケート靴」だった。
今回もう一つの楽しみは「小、中」とスケートが縁で仲良くしてもらった、長野市の H さん夫妻と２０年ぶり？にお会いできる事でした。13：30～16：30 まで大会を見ながらお話ができた。別れ際にまた来年この会場でお会いする約束をしました。

5000 M予選

電光掲示板

会場の廊下で一生懸命スケート靴を研磨している人がいて、思わず声をかけてしまいました。（私もさんざ経験しました）北海道厚真の方で娘さんが女子 500M 決勝に出るとの事。札幌便で羽田～長野新幹線と交通費も大変と思う。スケートはリンクへの送り迎え、滑走料、靴などの経費。靴の研磨などの手間。等々親の経費、手間も大変です。でも親子協力、共闘で結ばれた親子、家族間の結びつきは、貴重なものです。女子 500M 決勝で娘さんは一生懸命滑っていました。気になって 1000M の記録をネットで検索したら優秀な選手で 1000M も決勝に進出していました。２種目決勝に出る事は大変な努力が必要です。
参考までに　第１０回大会（帯広市、1990.2/1～4）の結果。男子 3000M、5000M 共に優勝は原巨樹（長野、川上。彼はダントツに強かった）共に２位は野明弘幸（長野、原、後オリンピック選手になった）1500M 優勝は糸川敏彦（北海道清里、後白樺学園高校でオリンピック選手に、3000M は４位だった）学校対抗は１位　池田（北海道）、２位　川上（長野）、５位　原（長野）。女子の優勝者、1000M は三宮恵利子（北海道釧路共栄、後オリンピック選手に）1500M と 3000M は田畑真紀（北海道鵡川、後オリンピック選手に）学校対抗は川上（長野）が１位。長野県勢は男女共北海道勢と互角に競い合った。我が息子、健一は予選のシングルトラックが極めて苦手で、（後のインターハイ予選、国体でも苦労の連続）。5000M でなんとか決勝に残り、４位だったが、３位になり長野勢で 1～3 位を独占したかった。この時の３年生はオリンピック選手にその後なった者が多い（羽石國臣、野崎貴裕、山影博明、根本奈美、香川真由美など）。レベルが高かったと言える。